



令和2年度 校長だより

令和2年8月7日(金)

大野の風

No.3

文責 松下 義彦

1学期を終えるにあたって

さて、今日で一学期が終わります。今年はコロナウイルスの影響で5月末から学校がはじまり、今日まで2ヶ月ちょっとの1学期でした。この間みなさんはどのように過ごしてきたでしょうか。例年ならこの1学期には体育祭や中体連、自然教室や修学旅行に向けての取組等みなさんが活躍する姿をたくさん見ることができていました。そのことを考えると今年はみなさんのそのような活躍する場面を見ることができなくて残念な気持ちもしています。

しかし、そんな中でも頑張っている人の姿を先生は見ることができました。

去年までと違って授業をしっかり頑張っている人や中体連はなくなっただけで最後まで一生懸命練習に参加して頑張っていた人、あるいは、委員会活動でみんなにしっかり呼びかけをし、委員としての責任を果たそうとしていた人、そんな人たちをたくさん見ることができました。今のコロナ禍の中で、様々な制約がありますが、その中でもそれぞれの人たちが今できることを精一杯頑張ってくれていることを嬉しく思いました。このような状況の中でも、自分たちに「何ができるのか。」「どうやったらできるのか。」を考えることはとても大切なことだと思います。

先生が好きな松下幸之助さんが次のようなことを言っています。

悪い時が過ぎれば、よい時は必ず来る。

おしなべて、事を成す人は、必ず時の来るのを待つ。

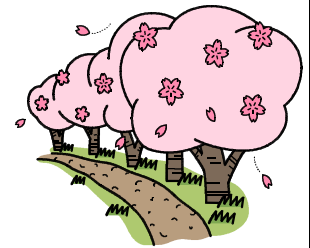
あせらずあわてず、静かに時の来るのを待つ。

時を待つ心は、春を待つ桜の姿といえよう。

だが何もせず待つ事は僥倖さようこうを待つに等しい。(僥倖＝偶然得る幸運)

静かに春を待つ桜は、一瞬の休みもなく力を蓄えている。

たくわえられた力がなければ、時が来ても事は成就しないであろう。



これからも私たちはこのコロナウイルスと一緒に生活していかなければなりません。でも、何もしないでジッとしてはだめです。先ほど言ったように「何ができるのか。」「どうやったらできるのか。」をみんな考えながら、学校生活が楽しく過ごせるような取組をみんな考えて行きましょう。そうすることが、これから先の私たちの力にきつとなるはずです。

さて、このあと皆さんは通知表をもらいます。今年の1学期は非常に短かったために、担任の先生の所見がありません。本来なら夏休み前の三者面談で担任の先生から1学期の様子や2学期から頑張りたいことを話してもらう予定にしていたのですが、臨時休校になったためにそれができませんでした。これについては、夏休み明けの三者面談の中で担任の先生から話していただくと思っています。ただ、各教科の頑張りについては通知表に評定として書いてありますので、それらを参考に夏休みの間にしっかり反省をし、2学期からの自分の学習に役立ててください。

今年の夏休みはわずか11日と非常に短いです。あっという間に過ぎてしまいます。特に3年生のみなさんにとっては、この11日間をどう過ごすかによって自分の進路に大きく影響することだと思います。目標も持って一日一日を大切に過ごしてください。

それでは、みなさん、短い夏休みですが健康に気をつけ元気に過ごしてください。

8月19日の始業式で元気にお会いしましょう。